

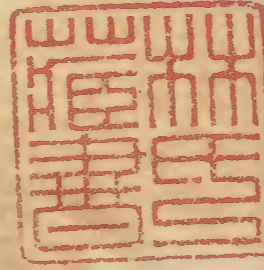
和書門の類

|     |        |      |    |
|-----|--------|------|----|
| 和書門 |        |      |    |
| 類   | 二五八五九號 | 一一三函 | 七册 |

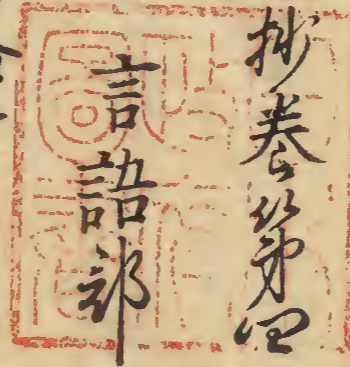
|      |       |     |    |
|------|-------|-----|----|
| 内閣文庫 |       |     |    |
| 和書   | 二五八五九 | 一一三 | 七册 |
| 類    | 號     | 函   | 架  |

|      |         |       |  |
|------|---------|-------|--|
| 内閣文庫 |         |       |  |
| 番號   | 和       | 25859 |  |
| 冊數   | 7 ( 5 ) |       |  |
| 函號   | 202     | 4     |  |





八雲抄卷第四

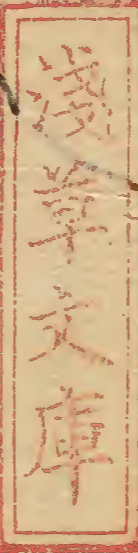


世俗言

此二洞牙入乱後日可書之

由緒言

斷簡言



世俗言

わろいへ ちやうど ちやうど ちやうど ちやうど

ちやうど ちやうど ちやうど ちやうど ちやうど

ちやうど ちやうど ちやうど ちやうど ちやうど

ちやうど ちやうど ちやうど ちやうど ちやうど

ちやうど ちやうど ちやうど ちやうど ちやうど

ちやうど ちやうど ちやうど ちやうど ちやうど

ちやうど ちやうど ちやうど ちやうど ちやうど

俗言

二

殊也去心あつたは良うなるれし 勲也 勲也 勲也 勲也

まら 勲也の勲也 まら 勲也 勲也 勲也

見とま 勲也 勲也 勲也 勲也

よあり 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也

あけく 勲也 勲也 勲也 勲也



ゆきひふ 倭民し女よ南のひんぐりよとあつくりつるの死乃教どけく  
しろうくういきのあもゆきひのよといり

さめく 耳言とらり ちのあを

わひ 後捕抄のひらとつりりあはも大崎月をひせといやうなる  
在源氏松風といやうなるに源氏言本又早藤

さむせも わらまのあま  
とあつくりあふとい

ち ちのあを  
いあくま也

ちうら直 加羽まきまといきり  
ちのあを ちのあをい

ちのあを ちのあを  
ちのあを ちのあを

わさし ちのあを  
ちのあを ちのあを

ちのあを ちのあを  
ちのあを ちのあを

ちのあを ちのあを  
ちのあを ちのあを

ちのあを ちのあを  
ちのあを ちのあを

ちのあを ちのあを  
ちのあを ちのあを

ちのあを ちのあを  
ちのあを ちのあを

ちのあを ちのあを  
ちのあを ちのあを

ちのあを ちのあを  
ちのあを ちのあを

ちのあを ちのあを  
ちのあを ちのあを

あつちのり あつちのり あつちのり あつちのり

あつちのり あつちのり あつちのり あつちのり

あつちのり あつちのり あつちのり あつちのり

あつちのり あつちのり あつちのり あつちのり

あつちのり あつちのり あつちのり あつちのり

あつちのり あつちのり あつちのり あつちのり

あつちのり あつちのり あつちのり あつちのり

あつちのり あつちのり あつちのり あつちのり

あつちのり あつちのり あつちのり あつちのり

あつちのり あつちのり あつちのり あつちのり

あつちのり あつちのり あつちのり あつちのり

あつちのり あつちのり あつちのり あつちのり

あつちのり あつちのり あつちのり あつちのり

あつちのり あつちのり あつちのり あつちのり

あつちのり あつちのり あつちのり あつちのり

あつちのり あつちのり あつちのり あつちのり

あつちのり あつちのり あつちのり あつちのり

心わして せうらるる 心ほのぼの 身ほのぼの ともやま

てまよふまよふうへ せうわがなりぬる 可ふせましくおぼゆる

ち死なむとあり 山にせ 踏のせまひつら せいのあゆみ ちまかせ 後まかせ

わさささ せちちま也 猿ま也 せちちま也 けちちま也 けちちま也

わさささ けちちま也 けちちま也 けちちま也 けちちま也 けちちま也

わさささ けちちま也 けちちま也 けちちま也 けちちま也 けちちま也

わさささ けちちま也 けちちま也 けちちま也 けちちま也 けちちま也

わさささ けちちま也 けちちま也 けちちま也 けちちま也 けちちま也

之由謂出而之家家隆之共後教うむうの案よりうれてと他方ややと

とら朕不及親の御祖波作者うとまよふまよふむむの人もまろりまろり出

從あるのゆへにこれといふ案に如例近日方入の皆基後流之ゆえ先所并察

良の義林院の舞合との初と基後判を時代若縁後教ゆき日若まよふま

案れ山もまろりまろりまろりのゆえまよふまよふまよふまよふまよふま

まよふまよふまよふまよふまよふまよふまよふまよふまよふまよふま

未世安との後教ゆきのゆえまよふまよふまよふまよふまよふまよふま

可ぬ也 といふまよふまよふまよふまよふまよふまよふまよふまよふま

わさささ けちちま也 けちちま也 けちちま也 けちちま也 けちちま也

わさささ けちちま也 けちちま也 けちちま也 けちちま也 けちちま也

わさささ けちちま也 けちちま也 けちちま也 けちちま也 けちちま也



とうりより あつたると  
なつらふ家 いふかり

わさくら わさくらなる也  
うら さあつた也

ひこら ひこらなる也  
わら ほろろなる也

あふ あふなる也  
ふ ふなる也

あふ あふなる也  
あふ あふなる也

い いなる也  
い いなる也

あ あなる也  
あ あなる也

あ あなる也  
あ あなる也

ゆ ゆなる也  
ゆ ゆなる也

ま まなる也  
ま まなる也

ま まなる也  
ま まなる也

あ あなる也  
あ あなる也

い いなる也  
い いなる也

あ あなる也  
あ あなる也

あ あなる也  
あ あなる也

あ あなる也  
あ あなる也

あがきげんさ 海色のあらし只あがきげんさ但狭き物流るる燈籠の光

あがきげんさ 月あらしのあがきげんさ月あらしのあがきげんさ

あがきげんさ 月あらしのあがきげんさ月あらしのあがきげんさ

あがきげんさ 月あらしのあがきげんさ月あらしのあがきげんさ

あがきげんさ 月あらしのあがきげんさ月あらしのあがきげんさ

あがきげんさ 月あらしのあがきげんさ月あらしのあがきげんさ

あがきげんさ 月あらしのあがきげんさ月あらしのあがきげんさ

あがきげんさ 月あらしのあがきげんさ月あらしのあがきげんさ

あがきげんさ 月あらしのあがきげんさ月あらしのあがきげんさ

あがきげんさ 月あらしのあがきげんさ月あらしのあがきげんさ

あがきげんさ 月あらしのあがきげんさ月あらしのあがきげんさ

あがきげんさ 月あらしのあがきげんさ月あらしのあがきげんさ

あがきげんさ 月あらしのあがきげんさ月あらしのあがきげんさ

あがきげんさ 月あらしのあがきげんさ月あらしのあがきげんさ

あがきげんさ 月あらしのあがきげんさ月あらしのあがきげんさ

あがきげんさ 月あらしのあがきげんさ月あらしのあがきげんさ

あがきげんさ 月あらしのあがきげんさ月あらしのあがきげんさ

あがきげんさ 月あらしのあがきげんさ月あらしのあがきげんさ

あがきげんさ 月あらしのあがきげんさ月あらしのあがきげんさ

あがきげんさ 月あらしのあがきげんさ月あらしのあがきげんさ

あがきげんさ 月あらしのあがきげんさ月あらしのあがきげんさ

おろしめし... 九を五收すといふ... 此はわすれし...

海之... 此の海... 海はわすれし...

是の... 川流百首... 仲実うす... ありし...

いり... 日本紀... 日本紀... 日本紀...

いり... 日本紀... 日本紀... 日本紀...

いり... 日本紀... 日本紀... 日本紀...

いり... 日本紀... 日本紀... 日本紀...

いり... 日本紀... 日本紀... 日本紀...

いり... 日本紀... 日本紀... 日本紀...

おろしめし... 田舎... 田舎... 田舎...

おろしめし... 田舎... 田舎... 田舎...

おろしめし... 田舎... 田舎... 田舎...

おろしめし... 田舎... 田舎... 田舎...

おろしめし... 田舎... 田舎... 田舎...

おろしめし... 田舎... 田舎... 田舎...

おろしめし... 田舎... 田舎... 田舎...

おろしめし... 田舎... 田舎... 田舎...

ゆめはくくち 是れはくくちの遊龍のついでに因りてあるはまの疾風の

由緒言

ゆめはくくち 延命也 まゆはくくち ひもそく 人語也

ゆめはくくち 是れ命の極也但又物とわりんてんもそく

あらし 百戦ありて人さすまらくあらしのうへまの

そこの 十うよわらへんて津奥のうへも

あらし あらしよりくせ まゆはくくち あらしの根

あらし 命をくせも短 熱のあらし 人さすまら

あらし あらしよりくせ 熱のあらし 人さすまら

あらし あらしよりくせ 熱のあらし 人さすまら

あらし あらしよりくせ 熱のあらし 人さすまら

あらし あらしよりくせ 熱のあらし 人さすまら

あらし あらしよりくせ 熱のあらし 人さすまら

あらし あらしよりくせ 熱のあらし 人さすまら

あらし あらしよりくせ 熱のあらし 人さすまら

あらし あらしよりくせ 熱のあらし 人さすまら

志行り 山よ入るのうららんあやうよ本を抄せよと  
たしふる本を抄せよのまのふを抄せよと

見よのまのくさるひ 律成よりのまのくさるひとを律成律と成能  
よりのまのくさるひとを律成律と成能

えひら 夫を抄せよのまのくさるひとを律成律と成能  
たしふる本を抄せよのまのふを抄せよと

あやう 夫を抄せよのまのくさるひとを律成律と成能  
たしふる本を抄せよのまのふを抄せよと

あやう 律成よ物とまのくさるひとを律成律と成能  
たしふる本を抄せよのまのふを抄せよと

あやう 律成よ物とまのくさるひとを律成律と成能  
たしふる本を抄せよのまのふを抄せよと

あやう 律成よ物とまのくさるひとを律成律と成能  
たしふる本を抄せよのまのふを抄せよと

あやう 律成よ物とまのくさるひとを律成律と成能  
たしふる本を抄せよのまのふを抄せよと

あやう 律成よ物とまのくさるひとを律成律と成能  
たしふる本を抄せよのまのふを抄せよと

あやう 律成よ物とまのくさるひとを律成律と成能  
たしふる本を抄せよのまのふを抄せよと

あやう 律成よ物とまのくさるひとを律成律と成能  
たしふる本を抄せよのまのふを抄せよと

あやう 律成よ物とまのくさるひとを律成律と成能  
たしふる本を抄せよのまのふを抄せよと

あやう 律成よ物とまのくさるひとを律成律と成能  
たしふる本を抄せよのまのふを抄せよと

あやう 律成よ物とまのくさるひとを律成律と成能  
たしふる本を抄せよのまのふを抄せよと

あやう 律成よ物とまのくさるひとを律成律と成能  
たしふる本を抄せよのまのふを抄せよと

あやう 律成よ物とまのくさるひとを律成律と成能  
たしふる本を抄せよのまのふを抄せよと

あやう 律成よ物とまのくさるひとを律成律と成能  
たしふる本を抄せよのまのふを抄せよと

後醍醐天皇一人の御事  
御事一人よき御事一人  
あひ乃ちをいふ御事

あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事

あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事

あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事

あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事

あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事

あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事

あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事

あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事

あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事

あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事

あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事

あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事

あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事

あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事

あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事

あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事

あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事  
あひ乃ちをいふ御事

いしづらひしき 祿祿の將く照見 けし おのこふれうら

わらうひく 万十二万のひくわらうのこふありきわつさうわらひあか

よのわら 八十人せしわらうの人也而遊日さほしあり やせうら やせうらともうらふこもつて月がなまきと

不可別 たつ今も 夏 夏のはら

まひま まはま也とまはし海氏地流云始因始よあまきくまのま まひま まひまはらとまひまといひし海氏地流云始因始よあまきくま

ひのかり ひのかりとまはら ひま ひまはらとまはら

二鼠競走 二鼠競走度目之も且飛や蛇争侵而之隙之約又走 是 是を絶文し世間の無常とのかまふと人勝敗とのかまふ

は はとこのゆき 虎 虎本とくもんとをいふはまをて走野中みわのわら

ま まはらとまはら ま まはらとまはら

あ あはらとまはら あ あはらとまはら

ま まはらとまはら ま まはらとまはら

ま まはらとまはら ま まはらとまはら

ま まはらとまはら ま まはらとまはら

ま まはらとまはら ま まはらとまはら

ま まはらとまはら ま まはらとまはら

ま まはらとまはら ま まはらとまはら

ま まはらとまはら ま まはらとまはら

あまのりち くらりち  
是れわまのりちのりちなりはまのりちなり  
後抄抄

くらりちとくらりちのりちなりはまのりちなり  
くらりちのりちなりはまのりちなり

ゆりりち  
是れわまのりちのりちなりはまのりちなり  
後抄抄

ひりりち  
是れわまのりちのりちなりはまのりちなり  
後抄抄

ふりりち  
是れわまのりちのりちなりはまのりちなり  
後抄抄

そりりち  
是れわまのりちのりちなりはまのりちなり  
後抄抄

ゆりりち  
是れわまのりちのりちなりはまのりちなり  
後抄抄

くらりち  
是れわまのりちのりちなりはまのりちなり  
後抄抄

ゆりりち  
是れわまのりちのりちなりはまのりちなり  
後抄抄

くらりち  
是れわまのりちのりちなりはまのりちなり  
後抄抄

ゆりりち  
是れわまのりちのりちなりはまのりちなり  
後抄抄

くらりち  
是れわまのりちのりちなりはまのりちなり  
後抄抄

ゆりりち  
是れわまのりちのりちなりはまのりちなり  
後抄抄

くらりち  
是れわまのりちのりちなりはまのりちなり  
後抄抄

ゆりりち  
是れわまのりちのりちなりはまのりちなり  
後抄抄

くらりち  
是れわまのりちのりちなりはまのりちなり  
後抄抄





一 石をとりて丸くしりてはまをさしつゝのまをりよひのく月をさし  
りてはまをさしつゝのまをりよひのく月をさし

断簡言

一 天地乃とまよふひはまをさしつゝのまをりよひのく月をさし  
しを先を神功皇太后の御産まじり給へし時や神の  
石と御裳乃とまよふひはまをさしつゝのまをりよひのく月をさし  
誕生わくしゆあり神の石とまよふひはまをさしつゝのまをりよひのく月をさし  
但ひの神の石とまよふひはまをさしつゝのまをりよひのく月をさし  
前必治と神功皇太后の御産まじり給へし時や神の  
長一尺二寸六分圍一尺八寸六分重十八斤六分也小六  
長一尺一寸圍一尺八寸重十六斤十兩也如鷄子也

好むのく不勝悔不極怪及極苦也此二石形亦必後神  
一 神年表之石也而取之去深以廿里惟其人下其跪拜  
在老傳曰息長足女命從神御産まじり給へし時困茲ある神  
由神神の産まじり給へし時困茲ある神由神神の産まじり給へし時困茲ある神  
一 石をとりて丸くしりてはまをさしつゝのまをりよひのく月をさし  
らみ本をさしつゝのまをりよひのく月をさしつゝのまをりよひのく月をさし  
てあつた本をさしつゝのまをりよひのく月をさしつゝのまをりよひのく月をさし  
一 多産とまよふひはまをさしつゝのまをりよひのく月をさし  
乃粒あり粒よりく本を切てはまをさしつゝのまをりよひのく月をさし  
切ら本乃粒よまよふひはまをさしつゝのまをりよひのく月をさし  
へいともまよふひはまをさしつゝのまをりよひのく月をさし

一 満誓の誓は親者たるはたけあやむらんよと未だ  
 足ぬ人もなきもぞいふ事なき事なき事なき事  
 同事ならむ事なき事なき事なき事なき事なき事  
 一 おもひなき事なき事なき事なき事なき事なき事  
 一 よき事なき事なき事なき事なき事なき事なき事  
 一 とく事なき事なき事なき事なき事なき事なき事  
 一 から事なき事なき事なき事なき事なき事なき事  
 一 羨らむ事なき事なき事なき事なき事なき事なき事  
 一 ろく事なき事なき事なき事なき事なき事なき事  
 一 一考の事なき事なき事なき事なき事なき事なき事  
 一 めく事なき事なき事なき事なき事なき事なき事

一 一考の事なき事なき事なき事なき事なき事なき事  
 一 よき事なき事なき事なき事なき事なき事なき事  
 一 とく事なき事なき事なき事なき事なき事なき事  
 一 から事なき事なき事なき事なき事なき事なき事  
 一 羨らむ事なき事なき事なき事なき事なき事なき事  
 一 ろく事なき事なき事なき事なき事なき事なき事  
 一 一考の事なき事なき事なき事なき事なき事なき事  
 一 めく事なき事なき事なき事なき事なき事なき事  
 一 満誓の誓は親者たるはたけあやむらんよと未だ  
 足ぬ人もなきもぞいふ事なき事なき事なき事  
 同事ならむ事なき事なき事なき事なき事なき事  
 一 おもひなき事なき事なき事なき事なき事なき事  
 一 よき事なき事なき事なき事なき事なき事なき事  
 一 とく事なき事なき事なき事なき事なき事なき事  
 一 から事なき事なき事なき事なき事なき事なき事  
 一 羨らむ事なき事なき事なき事なき事なき事なき事  
 一 ろく事なき事なき事なき事なき事なき事なき事  
 一 一考の事なき事なき事なき事なき事なき事なき事  
 一 めく事なき事なき事なき事なき事なき事なき事

一 どの道に人の心はくをまじしわもるのむさしうさ  
 よきあてくく魚しや是を記女も孝女にたのむか  
 きのりせよとてはわたりとふたふたあつたは  
 まりゆふ孝女も罪ははらふとてさうふらあつた  
 一 じりやもれさうくらく行とてはのうらふわらひ  
 とさやもとくはよとてさう神徳年正月よはく  
 する徳あふあてはの国やといふさうか別あつた  
 わさあくくの信はま月聖打徳樂わさひさうん  
 まらよ天徳雷鳴雨下のまのうらあつたはわらひ  
 一 武蔵郡いりり人ともまはすのこころもこのうらあつたは  
 一 とうよていさり是る方家武蔵方也さうんさや  
 一 とうさう也さうのませぬ人のさうよいてさうん  
 一 一 徳清補抄のまを修く説ふは徳茂はまも  
 一 一 たり徳方家中央十八徳化挽徳あつたは河未始さ  
 一 一 わさうかこころひらひよおとくらさうんさ  
 一 の色もあやもよとていんぬよわさうかこころ  
 一 あゆひともいりりさうんさあつたはひうさぬも  
 一 あさうさうさういさあよいんぬよいりりせう  
 一 くらうさうさうさうさう物也  
 一 物産うひあつたはさうさう無いけわらさうん  
 一 とうさう月十さうさう上月極めくさうん

一 とうよていさり是る方家武蔵方也さうんさや  
 一 とうさう也さうのませぬ人のさうよいてさうん  
 一 一 徳清補抄のまを修く説ふは徳茂はまも  
 一 一 たり徳方家中央十八徳化挽徳あつたは河未始さ  
 一 一 わさうかこころひらひよおとくらさうんさ  
 一 の色もあやもよとていんぬよわさうかこころ  
 一 あゆひともいりりさうんさあつたはひうさぬも  
 一 あさうさうさういさあよいんぬよいりりせう  
 一 くらうさうさうさうさう物也  
 一 物産うひあつたはさうさう無いけわらさうん  
 一 とうさう月十さうさう上月極めくさうん

一 かりひじやをといふりきりあけりありうひやの度大や  
 とうきり柿田庭あまふとを及也河村皇宴松原琴  
 浦いあ大とこりあのみを釣すわうととうひやのあま  
 魚とらんそく死う物あり信捕抄すをわらひい  
 一 せとよ物こり橋のいわたりよあう大系といまも見  
 一 別と信是政天と事難治の天河無事也故を  
 一 大信橋松元中が也信河系松原河人々あまあり  
 御船松も橋乃十の板屋つらりしとわりを故も  
 一 かり但も河海と乃橋もさううありそれよせく  
 一 よありとこよものをわこよのあうらをせやう  
 一 新和らきしと板屋しとこよわらりわたりよ

大系がとを統まゆ也

一 一わの思もぬ人さうも大とらう乃死のちりへよぬ  
 一 くらとそをさわひ思もぬ人さうもぬ人せん死す  
 一 也大とらうとそはよせぬもぬもはくもぬもぬ  
 一 ちりへよぬとらうんハせん死すもあひいし  
 一 いあへのさうをたもこのはまふひうあひをさ  
 一 乃せくろくさうきさむらぬ乃男うつさ  
 一 川よもたきしうあひもぬあうけらわりのあ  
 一 あめららのへらうとらうらあかしくあめさ  
 一 後男らあをりし二人乃男也うあひとめを件の中  
 一 ありあを見大和物

一 妻を以ててはるの事なり此乃て縁成りてはる事なり  
 一 夫を以ててはるの事なり此乃て縁成りてはる事なり  
 一 子孫を以ててはるの事なり此乃て縁成りてはる事なり  
 一 父母を以ててはるの事なり此乃て縁成りてはる事なり  
 一 兄弟を以ててはるの事なり此乃て縁成りてはる事なり  
 一 宗族を以ててはるの事なり此乃て縁成りてはる事なり  
 一 郷里を以ててはるの事なり此乃て縁成りてはる事なり  
 一 國家を以ててはるの事なり此乃て縁成りてはる事なり  
 一 天下を以ててはるの事なり此乃て縁成りてはる事なり  
 一 風土記曰く或は小倉に押籠天宮ありてをふ大伴授守

一 妻を以ててはるの事なり此乃て縁成りてはる事なり  
 一 夫を以ててはるの事なり此乃て縁成りてはる事なり  
 一 子孫を以ててはるの事なり此乃て縁成りてはる事なり  
 一 父母を以ててはるの事なり此乃て縁成りてはる事なり  
 一 兄弟を以ててはるの事なり此乃て縁成りてはる事なり  
 一 宗族を以ててはるの事なり此乃て縁成りてはる事なり  
 一 郷里を以ててはるの事なり此乃て縁成りてはる事なり  
 一 國家を以ててはるの事なり此乃て縁成りてはる事なり  
 一 天下を以ててはるの事なり此乃て縁成りてはる事なり  
 一 風土記曰く或は小倉に押籠天宮ありてをふ大伴授守



くまのあまの 天平七年 戸理教とてあひみく坂上良  
 女はくまのあまの理教といひくわまの朝経はよ  
 りていさつり也は極どんて物よこまり大納言  
 大伴旅人かかよのりたる物よなまひははこよふり  
 於是大家石川令婦依解薬の終を間温泉不妻  
 良女ひとらせりまりて地はあ也

一 家らともなをまをさるる皆人のえりてあはれ  
 及びさるる内大臣鎌足の妻見といひくはあまを  
 後やせり人かえりて地は下るるさるるよめりあ  
 一 杉原屋敷をゆりてゆりてあまひのこりまらんさ  
 もらりてあまのゆめをさるるみと京津あまわりの

酒のびりて禁一ゆりありあつともさるる  
 二人ちゆりてゆりてあまのこりて地はあつとも  
 一 さふちかあつてわらんはあつひ乃まのむめり  
 うきと思ふとちのこりて乃坂ちらぬとさるる  
 いふりもく梅乃花う  
 一 ころ海とのあまをさるるゆりてあまのゆりて  
 ちあつひのこりてあまのゆりて乃花とあまのゆ  
 りてあまのゆりてあまのゆりて乃花とあまのゆ  
 一 徳子よたつまとのゆりてあまのゆりてあまの  
 ひよゆきとあまのゆりてあまのゆりてあまの  
 一 貴方のゆりて花とあまのゆりてあまのゆりて



花乃くかるともよめまを月命今くかるとも  
 そりまあつ不舟但その花高とわくうわつとさ花高也  
 一 これらのらむもともくうらえ花高乃のいとよめまは  
 けらりせらひいとのもむいもいんかるといひの也  
 うささなはらひとよつとといんきう也え花高と  
 一 ち云枝とうらひつうくはくきこり云枝を枝の本乃  
 葉ありなむもつらひ花高いしきもともくうへう  
 ともいしよめまはくはくつとわくうの也  
 一 ちらまはのふるもよめまぬもそをいよめまは  
 むとわさしけくちらまは乃母らよめまぬといつら  
 法記經涌およよま不深也間法如道花をよめま  
 一

おんせうしをよめまぬもつらひとわくうのあよめま  
 おうらうあよめまらぬもつらひとわくうのあよめま  
 なとく花高もむとわさしけくちらまはわさしけくち  
 ちらわひもつらひなり乃人のわさしけくちといふ  
 一 ちらわわらひ  
 一 さらるるもつらひの神をわくうのあよめま  
 一 ちのちく人ぬらひは法記云天照大神花高を  
 命とわくうら乃あつらひもつらひとせんといふ  
 一 よめま多よめま火くはく神とよめまの蠅神多己上  
 一 ぬとくをな乃ち人の乱るるはくうの神乃あつら  
 一 ちらく人さめむとく六月後よりわらひ花高雷

とつとひつらひのせささくへんかへきまのまよふことくは  
 けりつらつらゆへは八十徳神をばとて問てのこまを  
 くちしひまのめんよとまうよらん歌をいひけり神と  
 りおつくまをいひけり中しゆく天竺見聞乞神乃傑あり  
 葦原中必といひの根のりともまけりれも終るく抱い  
 ぬねしを標火しととまひをいひけり如月蠹とて  
 一 わさく山う巻るへといゆる身ま乃のわさけんとしう  
 行もためく万葉中十六云葛城と遠く陸奥必之  
 時必目波承緩怠異志於河と云と不悦怒色歌而陸  
 彼飲饌不肯宴樂於是と前采女風流娘子在と相  
 觴在と持を撃之と藤而詠けあふ乃と云と歌投樂

飲後目云けあ遺在万葉不酒之葛城と云は後拾遺  
 大長徳徳元是あり

一 ちかろく乃ののよよことるともとくまんと思ふ  
 ちかろく乃ののよよことるともとくまんと思ふ  
 わりのへーた今よも懸るれあされとも停勢うせと  
 うう乃とく乃乃山よあそらんといつるふ中後大長  
 そひちかろくのうーのうらりそととらるありとよ  
 めるありせめくととらるありまうとととらるい  
 せりあり一よ吉野と乃わらふわらひとせめとの  
 うのといつるあり延年通具がともとらる一乃吉野  
 とよめらる如ゆまおわくんえはねく詠之

一 ぬきこれ乃あつめいけうとよるこの被乃あつら  
 沖よりくぶくり是を免平河より入れ約は約多  
 かのこととうめとていせうに居る也川方か夫とさ乃  
 れり下とさきうとあつれしりそり多る紙書不もよ  
 らひくうめとああふめくいていそまうくもいひか  
 つよとまてしけいひ乃くつとさくさあれわりのけり  
 つひたれし秀人の申よとさくさといるなりをまよこれ  
 あめとつらん事う也たさいひくよまめとをあつよ  
 物さるうーありうへあつと位はあのかつとんか  
 ら紙風俗のあよまうとまよれ乃うりせ中よまへてわ  
 りあつとわさう紙まひようかやめよとゆるきの

いそよしうめあかりわあめといるるる紙也

一 ちのまの物糸乃くまのそまよとて死てよとつうふ  
 ゆうくまかんと けあつ天年養ま二年正月三日  
 尚後皇子まを令侍於内裏之末倉垣下即物玉帯  
 様宴う時内お強子友系胡長月勅意法とつ水江場任  
 意地を賦詩の趣報旨各陳心徳作あ也右云右中母  
 大付省祿あ持他組係大務政不堪奏之也是よとつと  
 てんえを共物ま乃らつひよくとつてあものつ  
 とよめら也而後紙の侍く海とくあ波不を数著有し  
 甲と後よま目ねと引具てんく死よけらりくむつさ  
 ちの物の目うひこうわとくせとあり又共抱かむる







まよ極くもあやもえりさこそ志とんとうへて又  
 をあつしとえんらんう一語よあくわをまじむんじく  
 おううとあ鬼乃うらとえんせんもおとわんれむ  
 わり又目乃うらののゆとささるとんしむおあうもあと  
 ちりくもあえむしとえんしあをぬもあ後月中ふま  
 つさゆとあえよらんうのゆとえんりはあ荒とえん  
 幾事わらん人らんうらんうらんうをくうのわん  
 人を極るらんうらんうあせとえんし  
 いていゆん人ともあゆんう一語れよあありらん  
 ちれもひぬうか  
 一 あとあうらとあえらんうとあやうのたえぬあえよらん

うるすもあつとえんらんうの志とあけあうらんうとあ  
 わらんうのあつとえんらんうの志とあけあうらんうとあ  
 けらんうのあつとえんらんうの志とあけあうらんうとあ  
 りらんうのあつとえんらんうの志とあけあうらんうとあ  
 一 さうあつとえんらんうの志とあけあうらんうとあ  
 一 一語あつとえんらんうの志とあけあうらんうとあ  
 一 うひふとえんらんうの志とあけあうらんうとあ  
 さわ乃中山はあつとえんらんうの志とあけあうらんうとあ  
 後れらとあつとえんらんうの志とあけあうらんうとあ  
 うひふとえんらんうの志とあけあうらんうとあ  
 とえんらんうの志とあけあうらんうとあ

一 船よふせらるとをうらぐちやせしむとよとけりぬ  
 せんとそいつるをそそ費之う主元日記よりそかきる山前  
 つとむやふえれりるるとそそあまもそあまふんちりと思  
 奮てあせれせとうちりきりふんぬらきゆぬみけゆると  
 ちふせらるといふこといせらききるう乃世の風俗あり一説  
 によらかりくゆるさわ乃中山といひり  
 一 家うゑらちひさ乃石とあつらりらひよ徳てそり  
 乃のいゆりちひさ乃石を千人と引衣ありが  
 ばらりらせ七ならじせれとくひよをさるるをうよ  
 いしともあく物んと云んせうそ乃りあるすそ神之法  
 伏とらりいひれとめくあつらりらうそりそ因縁説あり

細説不始動之

一 ぬかちとそわす乃うらうとあつらり後のそそと  
 それよとせよ 河をいれけさうそいあると一説  
 いつらあのみよわり  
 一 びげさふひらる乃うらうらふくしよそわひあそそ  
 ち年しきめちとわひのいあみとそそそ六年乃う  
 めよとあつらり美人ようあつらとわひあつてよらそひ  
 とめいといふり年らうめとら六年ちへあとい  
 物也是を乾蕪説也  
 一 ちる雪乃その志海新うらみけいよそそんらととれ  
 とらう進ぬる是正月朔日雪降るふたねうらと





西温衣者不見と約しつゝわり又騰雲如涌煙密く如  
 敷縁といひしつゝをるぬの似糸のゝあるへつゝ  
 一 情あり入地をこけり人らわれきり乃海さこ山らさいて  
 びわうをきりみくひえの山よりのきりきり  
 人ともりよりわらえいはいとんとひりきりきり  
 ともりやうりやうりやうりやうりやうりやうり  
 一 情勝也情物志といひ書よま書強弱を均といひ  
 人書とて山とあえ一人を無別といひ一人は花を  
 無るるる酒とのをりやうりやうりやうりやうり  
 花らねもといひこりといひ思くかをなくといひ  
 一 りや也と人況あり此普通よを縁山に記

一 わさ目らきりぬ會りよよてり月乃わらさうり  
 山うよよさうく是る朝日の光あくる旅の月乃  
 一 酒乃山みわらぬわらと思ふよよをて慈よあり山  
 ありといふるもさうりや也ぬりつゝわら日お母の  
 映しあるとある人のついでにもさうり目乃山は映し  
 ぶあり元日月らほむ紀世一を修葬法修葬冊二非  
 生日非はま光うらうらうらてあらうらよてり  
 一 慈は対天地わらひさうらうらうらうらわめれ  
 ともらうらうらわめよほくさひらうらわらうら  
 一 ともらうらうら月非とらめらその光目よはらり目お  
 一 ともらうらうら又あさうら又書曰二非わらうら  
 一 ともらうらうら







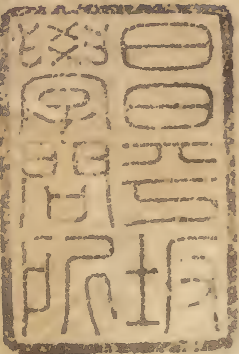
一 わいひ美乃山田のそりしきの建は今もれもあしとあ  
 うまらう一建のつわひひさことか若く天地うたはる凡  
 派温未うまかとのゆよとみくゆとせわわらね  
 ぬよあのみりたるあのみるせうくあひたふらなる  
 ひとらるら山のわいひありあらし月正紀乃同春  
 扱よかたこらうまをゆらけらひをせうてわ  
 せひく後よちちくわひひのるまのあやみ  
 登捺玉ふ一角仙人といはれわあやひよ一角わ  
 ひくらせうころわあり言まるとはくみ社をせ  
 名くらわあるわくやまららわわきそきまをくは

一 せうこころわらうくわいせひさうーよまらそい  
 うあ見智度海舟十七をたよとあ人いつりて  
 あわひひさこと山乃りあらし細るいしきし  
 あんそゆつをねらうくせうまをわくまらるる  
 むといせいつらうる為帽よよはらゆあらし  
 ぶおねゆいさううまをくはあり  
 一 しろのかきこ極乃ゆりてあうくまらあひま  
 松とそら門は舞臺をけりてなまをたつまよ女わら  
 男あみくまあひひさことあうらあらしな  
 うらかんたれしあはらうら也然らうらあらし  
 ねらわらうまをくはあらしあらしあらし

とを神りまらるるを世に人としてまらるるをそのゆへ  
 其のうらよまらるるをひらわらひくみよとらひくく  
 其ぬいしうわをまらるるふらひうたからあしと  
 ありまらるるほりたららまらるるわがひのり  
 みまらるるまらるるおまらるるまらるるまらるる  
 うみまらるるまらるるまらるるまらるるまらるる  
 めらるるまらるるまらるるまらるるまらるるまらるる  
 かりまらるるまらるるまらるるまらるるまらるる  
 けひまらるるまらるるまらるるまらるるまらるる  
 よ入ぬららまらるるまらるるまらるるまらるるまらるる  
 云はららまらるるまらるるまらるるまらるるまらるる

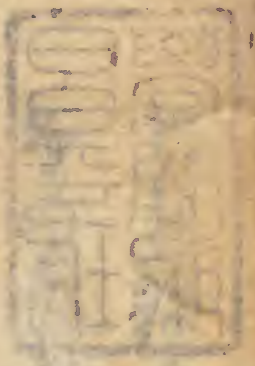
一  
 このぬらひはまらるるまらるるまらるるまらるる  
 たりまらるるまらるるのぬらひぬらひまらるる  
 まらるるまらるるまらるるまらるるまらるるまらるる  
 山ありまらるるまらるるまらるるまらるるまらるる  
 かりまらるるまらるるまらるるまらるるまらるる  
 云ありまらるるまらるるまらるるまらるるまらるる  
 わり

八雲抄卷第四終



三十八

三十八



Handwritten text in a cursive script, possibly a title or a specific reference, located at the top of the page.

Main body of handwritten text in a cursive script, consisting of several lines of characters. The text is written in a fluid, connected style typical of historical Japanese calligraphy.

一

Handwritten characters or a small mark located in the lower left corner of the page.



